

第4回岡崎市立地適正化計画懇談会 会議録

- 1 会議の日時 平成28年12月19日（月） 午後2時
- 2 会議の場所 岡崎市役所分館 202号室
- 3 会議に出席した委員（10名）

松本 幸正	委員	（名城大学工学部 教授）
小川 英明	委員	（愛知産業大学 名誉教授）
大高 利之	委員	（愛知県宅地建物取引業協会西三河支部 支部長）
小島 孝之	委員	（岡崎市社会福祉協議会 事務局長）
近藤 博之	委員	（名鉄バス株式会社運輸部長）
山中 賢一	委員	（岡崎商工会議所 専務理事）
酒井 英二	委員	（岡崎市六ツ美商工会 会長）
齋尾 裕史	委員	（都市計画審議会 市民公募委員）
横山 甲太郎	委員	（愛知県建設部都市計画課 課長）
		※小井手 秀人 課長補佐 代理出席
林 由紀夫	委員	（愛知県西三河建設事務所 企画調整監）

4 説明等のため出席した事務局職員及び関係部局職員

(1) 事務局職員

都市整備部長	山本 公德
都市整備部都市計画課長	新井 正徳
都市整備部都市計画課 主幹	松澤 耕
都市整備部都市計画課 主任主査	近藤 健
都市整備部都市計画課 主任主査	牧尾 誠

5 会議内容

- (1) パブリックコメントの結果と計画案の修正概要について
- (2) 今後の方針・予定について

6 意見交換等（要旨）

事務局より内容説明の後、次の主旨の意見交換等がなされた。

- ・計画書の中で都心ゾーンがどこなのか範囲、定義を示すとよい。
- ・届出が工事着手の30日前では、既に具体的な設計などが行われた段階であり、実効的な誘導になりにくいため、独自に事前相談の制度を設けるなど、より実効性のある方策を今後検討していくとよい。

- 2つの都市機能誘導区域について、名称が同じ「都市機能誘導区域」ではわかりづらい。例えば「東岡崎駅周辺都市機能誘導区域」「岡崎駅周辺都市機能誘導区域」というように個別の名称をつけてはどうか。
- 立地適正化計画はいろいろな難しい言葉が出てくるので、今後も市民にとってより分かりやすくという観点でつくっていくことが大切だと思う。
- 例えば、京都が「歩くまち京都」という取り組みを行っており、市民向けにはキャンペーンとして情報を継続して発信し続けている。このように違う媒体を使って理解をしてもらうこともひとつの方法として検討していくとよいのではないか。
- 防災の危険性が高いところの扱いについては意見が分かれるため、今後の居住誘導区域の検討に向けて考え方を整理する必要がある。
- 公共交通機関を主体とするというなかで、自動車の利用をどう認めていくか、メリハリをどうつけていくかが大切だと考えられる。
- 岡崎市における立地適正化計画の主旨や必要性は全国の他都市や法律の主旨と必ずしも一致しないところがある。そのあたりを市民に理解してもらう必要がある。
- 公共交通機関を使う際にダイヤや行先などを簡単に調べることができれば、より公共交通機関を使いやすくなると思うので、そのようなソフト対策も有効ではないか。
- 人口密度が高いが水が浸かりやすいなど災害の危険性がある地域もある。一方で非常に利便性も高く住むのに適していると思うので、そういうところの検討も今後必要になる。
- 直接立地適正化計画の範囲ではないと思うが、都市計画区域外のコンパクト+ネットワークも市全体としては考える必要がある。また、市街化調整区域にも人口が集積する集落もある。
- 岡崎市の人口はいずれ減少することになる。今後検討する居住誘導区域の人口をどれくらいみるのか、都市経営の観点からも施策の検討が必要だと思う。また、交通とも連携して検討を進めてもらいたい。

以上。